



平野 武志 議員

3月定例会では、平野議員、新井田議員、竹田議員、吉田議員の4氏が一般質問を行いました。

問 町政執行方針 町長の熱い思いは

答 社会情勢厳しく歯がゆい思い —— 町長

質 問 平成26年度は、第6次木古内町振興計画の初年度にあたり、今後の振興計画が順調に進められるかを見定める重要な年度になることから、町長の考えを尋ねます。

①「新幹線開業に向け、職員が一丸となる」とありますが、担当していない課によつてはまだまだ関心が薄い職員も多いと感じています。全職員へ意思疎通を図るため、どのような指示や対応を行つていきますか。

②「家庭・児童福祉」の中で、「人間関係の希薄化が進む中で」と現状分析をしています。田舎町である我が町への思いが述べられていないことは非常に残念であり、もっと大胆な思いを掲げてもしっかりではないでしょうか。また、現在は2か所の民間保育所が学童保育を運営していますが、大変厳しい状況だと聞

いています。学童保育の支援については、「別途検討が必要」と記載していますが、どのような意味なのでしょう。③多数のかたから、国

保病院への思いを伺うと、まだまだ信頼を得ていないと言えない状況ですが、町民からの評価をどの程度把握しているのでしょうか。

④定住・移住対策という最重要課題である雇用場所の拡充については、積極的な企業誘致が必要です。また、3次産業・6次産業に対し、どのように考えているのでしょうか。

⑤人口減対策は大変深刻で、このまま進めば財政危機となり自治体として成り立たなくなる事も心配されます。定住・移住対策と併せ、「人口減に対するプロジェクトチーム」を設置するべきだと思います。

大森町長 ①新幹線開

連事業等の開催時は、職員に対し庁舎内の電子情報システムを通じて情報提供を行つていきます。また、まちづくり新幹線課の若手職員を講師とした新幹線事業説明会も開催し、意識の高揚を図つていきます。

②少子化が進行するなど、家族間のコミュニケーションの低下等が人間関係の希薄化に直結していると思つていきます。

過去には、学童保育についての検討もしましたが、個人への負担もあり希望者も少なく、当時の厳しい財政事情から実施は困難となりましたが、新年度には学童保育や将来の子ども・子育て支援事業計画に盛り込んでいきたいと考えています。

③昨年、外来患者並びに退院時に接遇満足度アンケートを実施しており、満足は80%以上、不満は2%以下という

結果で、新病院の移転を機に意識改革に取り組んだ成果だと認識しています。

④企業誘致の取り組みは継続して行つていますが、契約締結には至っていません。

3次産業・6次産業化に向けては、流通や販路拡大も必要であり、意欲のある若手後継者もいることから、今後も調査研究を行い支援に努めていきます。

⑤人口減対策は、極めて重要であり、新年度からは学校給食費の保護者負担半額助成を行うほか、道営住宅の整備など現在、ホームページに移住・定住コーナーの設置作業を進めており、様々な情報発信を行つていきます。

現在は、各課が連携して事業を進めており、プロジェクトチームの設置は考えていません。